

オが行きわたれば、解消できると考えている。また、防災情報の伝達については、ホームページやケーブルテレビなど、多様な手段を活用したい。特に、屋外の方への対応としては、防災メールの登録を推奨するとともに、メーカーに対して増設用の安価なスピーカーの開発を要請している。

危機管理行政について

朝長 英美 議員



本市の指定避難所の数と非常用物資の備蓄量について尋ねる。また、ハザードマップは完成したのか。また、市職員の消防団への入団促進の状況と、少年消防団の結成は可能なのか。また、学校施設の非構造部材の耐震化は完璧なのか。また、住民センターなどの耐震化は行っているのか。

A

本市の指定避難所は48施設で、非常用物資の備蓄量は防災計画に示している人口の5%の3日分を確保できていないため、年次計画を立て増やしていきたい。また、ハザードマップについては、西大村地区以北が完成していない。また、消防団については市職員の加入を促進し、少年消

防団については全体の組織率向上のため、子どもたちへのPR活動を継続したい。また、学校施設の非構造部材の落下防止対策の実施率については現在64%であり、今年度中に完了する予定である。また、指定避難所の耐震化については、出張所を含め15力所が未実施である。



生活・環境

ノラえもん救援活動で殺処分ゼロを目指す

田中 博文 議員



人と動物たちとの共生を目指す上で、特に問題となるのが、殺処分ゼロへの取り組みである。「家族の一員」から「社会の一員」へと意識改革を進める中で、これからは殺処分ゼロへの機運をオーラル大村で盛り上げなければならぬ。その思いを込めた仮称「ノラえもん救援募金箱」を随所に設置してはどうか。



「ノラえもん救援募金箱」という興味が湧くようなネーミングによる広報や意識づけは、大変貴重な提案だと思っっている。今後の動物愛護施策の推進のための参考としたい。

三浦 鈴田への公共交通機関の設置について

山口 弘宣 議員



大村市は来年度から交通空白地における乗合タクシーの実証運行導入事業を実施することとなった。三浦・鈴田地区においても交通空白地は存在しており、さらに、三浦地区においては、大村市内の高校に通学するには大変不便であるため、乗合タクシー等の公共交通機関の設置が急務と考えるが、見解を尋ねる。

A

乗合タクシーの実証運行については、交通空白地域の中で75歳以上の人口が多い地区を中心に、松原・福重地区及び荒平・水計地区をモデル地区として選定し、来年7月頃に運行する予定である。他の交通空白地域については、この実証運行を踏まえ、地元の皆様のご意見を伺いながら、導入に向けて検討を進めたい。

田久保バス停付近への信号機の設置について

山口 弘宣 議員



県道大村貝津線では、朝の通勤ラッシュ時等に横道から入れない状況が常態化している。このため、渋滞対策や安全対策として、車の流れを遮断し、安全に歩行者の横断や車の出入りができるように、陰平地区の田久保バス停付近に、早急に信号機を設置してほしいが、見解を尋ねる。

A

大村警察署に確認したところ、田久保バス停付近への信号機の設置については、以前から要望を受けており、今後同バス停付近の交通量や横断歩道の利用状況を調査し、必要性を検討することのことであった。市としても、しっかりと県と協議し、進めていただくよう進言したい。

